

2026 年 6 月 22 日

学校法人三幸学園
福岡こども専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 吉本 勇介

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 吉本 勇介 （社会福祉法人コスモス聖会 大橋コスモス保育園 園長）
- ② 宮崎 わかば（社会福祉法人済聖会 ブライトこども園福岡東比恵 2025 年度卒業生）
- ③ 吉留 朝美 （学校法人三幸学園 飛鳥未来高等学校 福岡博多キャンパス キャンパス長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 19 日（会場 福岡こども専門学校 本館 201 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 福岡こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 林成志

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 吉本勇介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・社会と業界のニーズに合った“実践的な職業教育”の確立

→学生全員に学外での多様な学びの機会を提供するため、実践の場となる受け入れ先を継続的に開拓し、在籍学生数に応じた十分な活動機会の確保に努めた。

→卒業生の就業状況や活躍状況を継続的に把握するため、就職先への訪問を強化し、現場から得られたニーズや課題を本学の教育課程の改善に反映する取り組みを進めた。

→本学の教育理念や特色(学園理解)への共感を基盤とした産学連携体制の強化を図り、地域産業界との強固なネットワークを通じて、学生の新たな採用機会の創出に取り組んだ。

② 学校関係者評価委員会コメント

＜吉本委員＞

・就職先への園訪問の強化は、保育現場や卒業生とのつながりを深め、教育内容の充実につながる有意義な取り組みである。また、ボランティア活動を通して、多様な人との関わりを経験することで、保育者として必要な資質の向上につながっていると感じる。

＜吉留委員＞

・保育現場や学生を取り巻く環境の変化に対応するため、保育現場の声を教育に反映することは重要である。また、産学連携を通じて学生の主体的な学びを促進し、実践力の向上につなげていく必要があると考える。

＜宮崎委員＞

・ボランティア活動を通して、こどもとの関わり方を実践的に学ぶことができた。また、「誰かの役に立っている」という

実感を得られた点が大きな学びとなったと感じる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・入学時のスタートアッププログラムにて教育理念や人材育成像について重点的に話しているが、継続的な浸透が図られていない。

② 今後の改善方策

・進級時の新年度ホームルーム等においても、教育理念や人材育成像について改めて触れる機会を設け、継続的な理解と浸透を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<宮崎委員>

・教育理念・目標については「おおよその内容は覚えている」という認識であり、日常的に意識していたわけではない。また、教育理念を日常的に意識している学生は多くない印象がある。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・新人事制度の導入により、評価を行う仕組みが明確になり整備されたものの、制度に対する教職員の理解度に差が見られる。
- ・DX 化促進による業務の効率化をさらに進める必要がある。

② 今後の改善方策

- ・人事制度内容の理解促進を図るとともに、評価者間での評価基準の統一を行い、面談スキルの向上を図る。
- ・事務業務における DX 推進に伴い、ITリテラシー・スキルを高める為の研修への参加を促進する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<吉本委員>

- ・保育業界の DX が現在大きく進んでいるが、導入時には業界特有の「手をかけたい」という意識から抵抗感も見られた。しかし、運用が進むにつれて利便性が実感され、現在では業務改善に役立っている。

<宮崎委員>

- ・週案・月案はタブレットで作成し、各クラスにはスマートフォン・タブレット・PC が整備されている。入力方法も複数準備されているため、業務が効率化している。DX 化が進んでいる点は評価できる。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4

資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・保育現場のニーズに則した人材を育成するカリキュラムおよびシラバスの見直しを行う必要がある。
- ・ボランティアやインターンシップ等の学びの機会について、実施時期や内容に偏りがある。

② 今後の改善方策

- ・2026年度より、週3日登校の新コースを開設。授業日以外の時間を活用し、職業教育活動に取り組みやすい学習環境を整備する。
- ・年間を通じて実践的な学びの機会を提供できる体制を体系的に整備する。
- ・2025年度より導入した「5領域理解度チェック」の内容を充実させるとともに、効果的なフィードバック方法を整備する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<吉本委員>

- ・保育に関する知識や保育実践は常に更新され続けている為、継続的に学ぶことができる環境を整備することは非常に重要なことだと感じる。

<吉留委員>

- ・通信制高校には不登校経験など環境変化に不安を抱える生徒が多く、進学先には通いやすさや安心できるサポート体制を重視する傾向がある。週3日制など多様な学習スタイルに対応している点も、進学先を選択する際の後押しになると感じる。

<宮崎委員>

- ・現時点では書類作成を担当する機会はなかったが、在学中に書類作成の方法を学んでおくことは実務に役立つと感じた。また、「5領域」の「環境」の学びは特に現在の保育実践に活かされており、環境をきっかけとして造形活動へつなげる視点が身についたと感じる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・卒業生への訪問頻度は向上したものの、教育活動の改善に繋げる為の意見や要望の収集については、まだ体系的な実施にいたっていない。

② 今後の改善方策

- ・直近の卒業生については、年3回訪問を行い、就業状況の把握及び離職防止に向けた支援を行う。
- ・卒業後3年間は年1回の訪問や聞き取りを行い、キャリア形成や就業状況の把握に努める。
- ・同窓会組織を活用し、卒業後のキャリア把握を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<吉本委員>

- ・卒業生を送り出した後の支援まで行う養成校は多くない中で、卒後支援に取り組む姿勢は保育現場として非常に心強い取り組みであると感じている。

<宮崎委員>

- ・卒業後に学校から直接訪問を受け、現状について話を聞いてもらえたことで安心感があり、卒業後も学校とのつながりを感じることができた。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4

学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・学生一人ひとりの学びの多様化に合わせた適切な生活環境および、学習環境の整備が必要である。
- ・学生の成人としての自立を促す機会の創出と、その成長段階に応じた適切な保護者との連携を図る必要がある。
- ・高校から専門学校への円滑な接続を実現するため、高専接続の取り組みの強化が必要である。

② 今後の改善方策

- ・合理的配慮の一環として、ハイフレックス授業を導入し、学生の状況に応じた受講方法の選択肢の幅を増やすために整備を行う。
- ・学修用端末の積極的な活用を推進し、学習環境の充実を図る。
- ・保護者への学修機会に関する案内を強化する。
- ・高校での教育内容を把握・共有することで、進学後の学習ギャップを解消し、専門学校での学びへ円滑に移行できる連携体制を整備する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<吉留委員>

- ・進学先との連携は今後も継続して取り組んでいきたい。卒業生が進学先でどのように学び、成長しているのかを共有していただくことで、在校生への指導に役立つためありがたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・実習日誌や書類のデジタル化を図ったが、システムの利便性・操作性に改善の余地がある。

② 今後の改善方策

- ・学生および実習先を対象に、システム運用後のアンケートを実施し、意見や要望を踏まえながら、継続的な改良を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜吉本委員＞

- ・保育現場では保育日誌のスマートフォン入力の抵抗感が強く、定着までには時間を要した。DX化への必要性について理解は進んでおり、実務の変化に対応するためには、現場の意識醸成を継続して行うことが重要であると感じる。

＜宮崎委員：保育科＞

- ・保育日誌を書く作業は負担が大きい業務であるが、デジタル化されたことで、効率的に進めることができた。また、AIの活用方法について、授業で学び、実践に役立てることができている。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

- ・福岡県専修学校各種学校協会の規定に従った適正な募集活動を実施する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025年度は第3期中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第2.0版＞を策定し、年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・コンプライアンスおよび個人情報管理の重要性が高まる中、全教職員への最新情報の周知と、関係法令等に関するさらなる理解促進が不可欠である。

② 今後の改善方策

・全教職員を対象とするコンプライアンス研修を実施し、関係法令等の遵守に関する共通理解を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・地域貢献活動への参加機会を継続的に確保し、学生の社会性や実践力の向上につなげる必要がある。

② 今後の改善方策

・昨年度に引き続き、保育業界に限らず地域貢献活動への参加機会を創出し、学生の主体的な学びを促進する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜吉留委員＞

- ・卒業生が気軽に学校へ立ち寄り、在校生と交流する機会が生まれていることは在校生や保護者に安心感を与えるとともに、学校を身近に感じられる居場所づくりにつながっている。今後もこのような取り組みを継続し、発展させていくことを期待する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

＜吉本委員＞

- ・卒業後支援を行う養成校としての連携は、保育現場にとって心強い取り組みであり、今後も教職員の成長と保育現場との連携強化を期待している。

＜吉留委員＞

- ・地域の活動や子どもと関わる機会に参加することで、自身の学びが社会に役立っていることを実感できる機会が生まれている。こうした経験は、保育への関心や職業意識を高める機会として有意義であると感じた。

＜宮崎委員＞

- ・先生との距離の近さや学校の雰囲気良く、行事では団結力や前に立つ経験を得られたことが大きな学びとなった。授業では、現在の保育現場で実践されている内容を、今後の授業にも取り入れていただきたいと感じている。

＜林副校長＞

- ・時代と業界のニーズに合った“実践的な職業教育”の確立が必要であると考え。社会のニーズに対する即応性を大切にしながら、職業能力等の育成に特化した実学教育の学校を目指すことで専門学校としての価値を一層高めていきたい。